

北陸でホンゴウソウが採集された

著者	鳥畠 昭信
著者別表示	Toribatake Akinobu
雑誌名	植物地理・分類研究
巻	43
号	1-2
ページ	127-127
発行年	1995-12-30
URL	http://doi.org/10.24517/00055617

○ 鳥島昭信：北陸でホンゴウソウが採集された
Akinobu Toribatake: *Andruris japonica* (Makino) Giesen Found in Hokuriku District

1995年9月9日、石川県能美郡辰口町の林下で、初めて見る小草を採集した。持ち帰った1個体(図1)の同定を早速試みたところ、それはホンゴウソウであることを知った。なお、ねんのため、元金沢大学教授里見信生先生を現地にご案内し、確認をお願いしたが、先生によると「公には発表されていないが、既に石川県下で採集されているので、石川県で2番目の発見である。しかし、北陸の他県では未だ産地が知られていない希少種である」とのことであった。標本は先生のおすすめによって、金沢大学理学部の標本庫に納めた。

鳥島昭信 s.n. (KANA 196215) Sept. 9, 1995
石川県能美郡辰口町 Tatsunokuchi, Nomi-gun,
Ishikawa Prefecture (KANA)

里見附記：今回、鳥島昭信氏がホンゴウソウを発見された機会に、石川県下で初発見の事実を知る小牧旻氏に御教示をいただいたが、産地は石川県羽咋郡富来町と鳳至郡門前町の教会付近の通称大巢子山、採集年月日は平成6年9月3日、採集者は南他喜男氏だそうで、小牧氏はこれを図に残し、標本は石川県能美郡川北町の川原捷彰氏に保存するよう寄託されたとのことである。

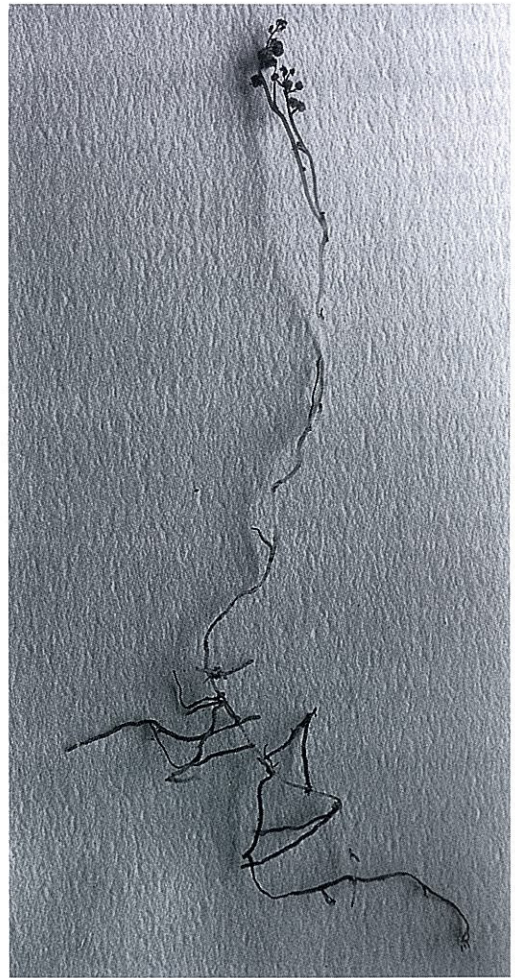


図1. 辰口町で採集したホンゴウソウ。

○ 薄葉 重 虫こぶ入門 一虫と植物の奇妙な関係一 (自然史双書6) A5判, 251頁, 1995年8月25日, 八坂書房発行, 2,400円。

大学生を野外実習に連れていき、いろいろな植物をみせていると、毎年のようにおこる会話がある。“わっ、これなんですか。きもちわるい”。私“なにになに！……虫こぶ。中あけてみいや、虫はいってるかもわからんから”。さらに、本当に虫が入っていたりしたらさらに大騒ぎでウゲーとかドワーとかうるさくてしかたがない。多様な植物がいるというのにただながめているばかりの彼等が、こと虫こぶに関しては大騒ぎするのはなぜだろうか？確かに虫こぶには目立つものがあるが、なぜ目立つのかについて本書を手にするまで深く考えたことはなかった。虫こぶというのは、植物(寄主)とゴール形成者だけの関係かと思っていたのだが、他に寄居者というのがあるらしい。これは、他人のせっかく作った虫こぶの組織を食べて生育して、結果として本来のゴール形成者を殺してしまうそう。さらに、ゴール形成者、寄居者両方をめがけて、虫こぶにいろいろな寄生昆虫が寄ってくるらしい。筆者はクリタマバチの虫こぶについて、目立つのは、クリが寄生蜂を誘っているのではないかと考察しているが、なるほどとうなずいてしまう。人間の虫こぶ利用のところでは、没食子や五倍子といった虫こぶが極めて高いタンニンを含んでいて、これをインク製造や草木染めに使うということを知った。タンニンというのは、一般に植物が昆虫の食害を防ぐために蓄積すると考えられているので、これも植物側のせいっぱいの抵抗かもしれない。相当に面白い本だと思う。一度でも虫こぶが気になったことがある人にはぜひ読んでいただきたい。(綿野泰行)